

“まさに円熟の境地” 結成40年を超えて世界の第一線で賞賛され続けるチェコを代表するカルテット

プラジャーク・クワルテット (弦楽四重奏)



PRAŽÁK QUARTET

ヤナ・ヴォナシュコーヴァ(ヴァイオリン)／ヴァラステイミル・ホレク(ヴァイオリン)
ヨセフ・クルソニユ(ヴィオラ)／ミハル・カニュカ(チェロ)

実施予定調整期間=2016年11月30日～12月15日 ('15.8月時点)

プラジャーク・クワルテットがお贈りする弦楽五重奏の精華

第2ヴィオラ=山崎智子(ロータス・カルテット/ドイツ・シュトゥットガルト)

弦楽四重奏というジャンルの発展形としてヴィオラをもう1パート増やした弦楽五重奏という分野には大変重要な名作がいくつも遺されています。モーツアルトやブラームスは弦楽四重奏曲を多数、あるいは複数書いていますが、彼らが書いた弦楽五重奏曲は弦楽四重奏を凌駕した境地にあると言っても過言ではないでしょう。しかしながら特に日本の場合、これらの弦楽五重奏曲は臨時にプレイヤーが寄せ集まって演奏することが大半で、常設の弦楽四重奏団奏者によって演奏されることはありません。

プラジャーク・クワルテットはこれら弦楽五重奏曲の傑作を日本で演奏することを希望。

その第2ヴィオラ奏者として、ドイツ・シュトゥットガルトを拠点とする、ロータス・カルテットのヴィオリニスト山崎智子を指名しました。

プラジャーク・クワルテットはロータス・カルテットと長年親しく交流しており、オクテットなどでの共演の他、ロータスのメンバーがプラジャークの代役を行ったり、弦楽四重奏以外の編成でそれぞれのメンバーが共演したりもしています。

プログラムA モーツアルト生誕260周年記念～オール・モーツアルト・プログラム～

◆弦楽五重奏曲 第1番 変ロ長調 K.174・第6番 変ホ長調 K.614・第4番 ト短調 K.516

プログラムB ◆ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調 op.74『ハープ』

◆モーツアルト：弦楽五重奏曲 第4番 ト短調 K.516

◆ブラームス：弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 op.111

プログラムC モーツアルト生誕260周年記念～オール・モーツアルト・プログラム～

◆弦楽五重奏曲 全曲(2日間)

第1番 変ロ長調 K.174・第2番 ハ短調 K.406・第3番 ハ長調 K.515

第4番 ト短調 K.516・第5番 ニ長調 K.593・第6番 変ホ長調 K.614

近年の日本公演スケジュール

※ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンは除く。

〈2009年〉

11/18 札幌西高等学校(アウトーチ)
11/19 札幌コンサートホール
11/20 東京文化会館
11/22 名古屋・宗次ホール
11/23 横浜・ひまわりの郷
11/24 藤沢・鶴沼室内楽愛好会
11/25 名古屋・マスタークラス
11/26 北九州市立医療センター
(アウトーチ)
11/26 北九州・響ホール
11/27 大阪・ザ・フェニックスホール
11/28 武蔵野市民文化会館

〈2012年〉

5/25 東京・日経ホール
5/26 神奈川・海老名市文化会館
5/27 埼玉・所沢市民文化センター
MUSE アークホール
5/28 横浜・鶴見区民文化センター
サルビアホール
5/29 藤沢・鶴沼サロンコンサート
5/31 福岡シンフォニーホール
6/2 岐阜現代美術館 NBKホール
6/3 名古屋 宗次ホール
6/4 名古屋 宗次ホール
6/5 和歌山・紀南文化会館
6/6 札幌コンサートホール 小ホール
6/7 兵庫県立芸術文化センター 小ホール

〈2014年〉

6/5 札幌コンサートホール Kitara 小ホール
6/7 札幌コンサートホール Kitara 大ホール
チェロ:ミハル・カニュカ(プラジャーク・クワルテット)
札幌名曲シリーズ 2014/15-vol.2(指揮:山下一史/札幌交響楽団)
6/8 福岡・宗像ユリックス ハーモニーホール(ピアノ:三輪 郁)
6/9 東京・よみうり大手町ホール(ピアノ:三輪 郁)
6/10 横浜・鶴見サルビアホール
6/12 神戸新聞松方ホール
6/13 京都コンサートホール アンサンブルホール ムラタ
(ピアノ:三輪 郁)
6/14 東京・武蔵野市民文化会館
6/15 東京・町田アートスペース・オー
6/17 藤沢・鶴沼サロンコンサート
6/18 名古屋 宗次ホール(ピアノ:榎原 祐子/コントラバス:榎原 利修)
※2011年より毎年ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンに参加。

お問い合わせ/コジマ・コンサートマネジメント

TEL.03-5379-3733 / 090-3727-6539

URL▶<http://www.kojimacm.com> E-mail▶kojimacm@ops.dti.ne.jp

プロフィール

プラジャーカ・クワルテット(弦楽四重奏) Pražák Quartet

ヤナ・ヴォナシュコーヴア(ヴァイオリン)/ ヴラスティミル・ホレク(ヴァイオリン)/ ヨセフ・クルソニユ(ヴァイオラ)/ ミハル・カニュカ(チェロ)

今日、最も国際的に活躍するチェコの弦楽四重奏団のひとつであるプラジャーカ・クワルテットは、メンバーがまだプラハ音楽院の学生であった1972年に結成された。以来このカルテットは、比類なきチェコのカルテットの伝統を受け継ぐものとして、そしてその音楽の質の高さによって注目を集めてきた。

1974年のチェコ音楽年にプラハ音楽院室内楽コンクールで第1位を獲得。1975年プラハの春音楽祭で演奏を行って国際的なキャリアを踏み出した。そして1978年にはエヴィアン弦楽四重奏コンクールで第1位に輝き、同時にコンクール中の最優秀録音に授与されるラジオ・フランスの特別賞も獲得。他にもチェコ国内の様々なコンクールで受賞。

以後30年以上にわたり世界中の舞台で活躍を続けている。ヨーロッパ音楽界の主要都市であるプラハ、パリ、アムステルダム、ブリュッセル、ミラノ、マドリード、ロンドン、ベルリン、ミュンヘンなどで公演を重ねるほか、幾多の国際的なフェスティバルに招待され、メナヘム・プレスラー、ヨゼフ・スークといった第一級の演奏家たちと共に演している。

近年では北米での活躍も目覚しく、ニューヨーク(カーネギー・ホール、リンカーン・センター、92番街Y)、ロサンゼルス、サンフランシスコ、ダラス、ヒューストン、ワシントン、フィラデルフィア、マイアミ、セントルイス、ニューオーリンズ、クリーブランド、ヴァンクーバー、トロント、モントリオールなど数多くの都市から度々招かれている。

現在はプラガ・デジタルズ(販売はハルモニア・モンディ)と専属契約を結んでおり、同レーベルからはこれまでに35枚を越える受賞CDがリリースされている。更にフランス、ドイツ、オランダ、チェコなどヨーロッパ、及び米国で放送向けに多数録音を行っているほか、スカラフォン、バントン、オルフェオ、オッターヴォ、ボントン、ヌオヴァ・エラによる録音もある。

2010年になって、同カルテット設立時から第一ヴァイオリンを担ってきたヴァーツラフ・レメシュの左手の状態が悪化して演奏を続けることが困難となつたため、コチアン弦楽四重奏団で長年第一ヴァイオリンを務めていたパヴェル・フーラが引き続いで活動を続けていたが、2013年頃より、フーラが病を得て、極めて多忙なプラジャーカ・クワルテットの一員として活動を継続することが次第に困難となってきたことから、ウイハン・クワルテットの第一ヴァイオリン奏者でプラハ芸術アカデミー教授でもあるレオシュ・チェピッキーが徐々に代わりを務めてきた。すでに数多くの演奏会でプラジャーカの一員として演奏するのみならず、フランスのレーベルミラーレのためにブライムスやヒンデミットの作品をレコーディングしていたのだが、チェピッキーはその要職と世界各国への演奏旅行などで多忙極めるプラジャーカ・クワルテットでの活動を両立させることができ次第に困難となつたため、新たな第一ヴァイオリン奏者の起用が急務となっていたところに、ソリスト・室内楽奏者の両面で傑出した技量を示している若手女性ヴァイオリニストヤナ・ヴォナシュコーヴアとの劇的な出会いがあり、彼女の加入により、ここにプラジャーカ新時代が始まるとなった。

(2015年7月現在)

「一気にキャリアを駆け上がったが、今は深さとゆるぎなきスタイルという段階に到達している。驚嘆に値する」

ジュート・ドイチェ・ツaitung

山崎智子(ヴァイオラ、ロータス・カルテット/ドイツ・シュトゥットガルト) Tomoko Yamasaki, Viola



6歳よりヴァイオリンを始め、相愛学園子供のための音楽教室を経て、相愛高等学校音楽科、相愛大学音楽学部卒業。ヴァイオリンを樋口育世、故 東儀祐二、曾我部千恵子、佐藤美都子、小栗まち絵の各氏に師事。

1988年 相愛大学在学中にヴァイオラに転向し、以後これまで井手修三、竹内晴夫、店村眞穂、菅沼準二、ヘルマン・フォスの各氏に師事。

1990年 新たに創設された、大阪センチュリー交響楽団の首席ヴァイオラ奏者に抜擢され、大学卒業と同時に就任し注目を集める。

この年の夏、イタリアのシェナ・キジアナ音楽院での講習会で室内楽をリッカルド・ブレンゴラ、ヴァイオラをユーリ・バシュメットのもとで受講し、共にデュプロマを受賞。さらに宝塚ベガコンクール室内楽部門第3位、NHK洋楽オーディションにも合格する。

1992年 大阪センチュリー交響楽団特別演奏会で『ウォルトン:ヴァイオラ協奏曲』のソリストを務める。(指揮=ウリエル・セガル)

さらに、ロータス・カルテットを結成し、第2回 日本室内楽コンクールで第2位を受賞し、大阪センチュリー交響楽団を退団。

ロータス・カルテットでの活動を主にフリーのヴァイオラ奏者としての活動を開始する。

1993年 ロータス・カルテットとして、第1回 大阪国際室内楽コンクールで第3位に入賞。さらに大阪でソロ・リサイタルを行うほか、紋別音楽祭、木曽音楽祭などに毎年招かれるなど、東京を拠点に多忙な演奏活動をおくる。

1995年 ロータス・カルテットとして、シュトゥットガルト音楽芸術大学に留学し、メロス弦楽四重奏団に師事。

1997年 ロータス・カルテットとして、難関 ロンドン国際弦楽四重奏コンクールでメニューイン特別賞を、ドイツBDI音楽コンクール弦楽四重奏部門で第1位に輝く。

これを契機にワーナー・テルデックとレコーディング契約を結び、CDのワールド・リリースが実現するなど、東京クアルテット以来遂に登場した日本人による国際的常設弦楽四重奏団としてドイツ・シュトゥットガルトを拠点に国際的に広く注目を集め、多忙な演奏活動をおくっている。

2008年と2009年にはKCM Concert Series at Osaka Clubにおいてリサイタルを行い、ソリストとしての傑出した力量を披露。絶賛を博した。

2009年~2010年には南西ドイツ・フィルハーモニー管弦楽団のソロ・ヴァイオリリストも務める。

日本の若手ヴァイオリニストの注目株としての活躍にも期待がもたれる。

“Quartet Alliance クワルテット・アライアンス”

～プラジャーカ・クワルテット&ロータス・カルテット～

チェコが誇る室内楽のトップランナーとして世界的な活躍を続けるプラジャーカ・クワルテット。

東京クワルテットが切り拓いた軌跡の後、ヨーロッパに唯一根づいたロータス・カルテット。

この二つのクワルテットはとても親密で深い友情と尊敬により結ばれており、欧州ではしばしば共演をしています。

お問い合わせ/コジマ・コンサートマネジメント

TEL.03-5379-3733/090-3727-6539

URL▶<http://www.kojimacm.com> E-mail▶kojimacm@ops.dti.ne.jp